

就職支援への取り組み

- ・キャリアセンターによる就職支援
 - 就職支援に関する指導の実施および求人情報の収集 . . . 1
 - 就職活動体験集・就職用企業パンフレットの作成 . . . 3

- ・職業人による講演および病院経営者による講演
 - 現役医療専門職従事者および病院経営者による講演 . . . 4
 - 看護専門職者による講演 . . . 6

- ・資格試験対策講座の開設
 - 診療情報管理士認定試験対策講座の開設 . . . 10

就職支援に関する検査・指導の実施および求人情報の収集

キャリアセンター 中村隆三

【概要】

学部3年生を対象とした就職ガイダンスにおいて、アセスメントの実施や外部講師講演を含めた指導を行った。実施時期は、9月から毎週火曜日1限及び合宿を計画授業の無い土曜日に集中講座を行なった。学生の就職試験対策及び進路決定までのサポートを目的とし、進路決定までに必要な知識の習得や面接対策などのトレーニング指導を行った。

また、求人情報の収集は大変厳しい経済環境のなか、年に3回の求人調査を行い、Webと掲示を通じて学生に情報を発信した。

【事業内容（平成22年4月から平成23年3月）】

●検査（アセスメント）の実施

- 9/28「職業適性検査 NAAIP」（性格、興味、言語、数理、判断推理、空間把握）参加 27名
- 10/26「職業適性検査 NAAIP」解説 参加 27名
- 11/16 一般常識のツボ 参加 15名
- 12/14 最近頻出の筆記試験「CABGAB 対策講座」参加 15名
- 12/21 最近頻出の筆記試験「CABGAB」参加 19名

●指導の実施

- 9/13「就職活動の流れ」就職活動ハンドブック、概略の説明 参加 42名
- 9/21「就職活動の心構え」人材像、自分史シート、価値観や職業観考察 参加 13名
- 10/2 集中 基礎セミナー自己分析、自己紹介の作成、履歴書・エントリーシートの書き方 参加 49名
- 10/5 講演「人って、すげえ」一人生の徳を積んで人財をめざすー 参加 22名
- 10/12 東三河地区就職活動の進め方と内定の秘訣 参加 27名
- 10/26 職業適性検査の解説 参加 30名
- 11/2 エントリーシートの書き方練習 参加 26名
- 11/9 就職ガイダンス（業界研究）参加 37名
- 11/30 就職セミナー（自己PR・志望動機：履歴書の書き方、講師坂元誉子）参加 25名
- 12/1 「自己分析実践講座」履歴書・エントリーシートへの反映講義 参加 14名
- 12/4 4年生学内合同企業説明会 参加 25名
- 12/7 「スーツ着こなし講座・面接対策」 参加 25名
- 1/11 「2月3月セミナー案内・イベント行動企画」 参加 27名
- 1/15 就職バスツアー 名大社企業展（名古屋）参加 5名
- 1/18 就職ガイダンス 参加 30名
- 2/5 学内企業研究セミナー 地元企業 38社による学内会社説明会 参加 52名
- 2/7 身だしなみ講座 1部 9:30から 11:30 参加 12名



10/5 講演「人って、すげえ」とんかつ武蔵社長



10/2 集中 基礎セミナー自己分析、自己紹介の作成、履歴書の書き方



10/12 東三河地区就職活動の進め方と内定の秘訣



12/7 リクルートスーツの着こなし講座



2/5 三河地区企業学内研究セミナー

●今後の検討課題

3年次秋学期より毎週火曜1時限と集中ガイダンスの形式で実施してきたが、学生の出席率の低下の問題についての検討が必要である。実施時間や内容について再度点検し、次年度のガイダンス計画について検討する必要がある。また、就職活動時期の早期化に伴う学生の就職意識の向上のため、3年次春学期にも就職ガイダンスを検討する必要もあろう。

●求人情報の収集

① 求人票発送一般企業 2,358件 (昨年 2,432件)
③ 11月追加求人調査 1,420件 (昨年 1,100件)

②医療系施設 915件 (昨年 778件)
求人調査票を発送した。

就職活動体験集・就職用企業パンフレットの作成

キャリアセンター 中村隆三

【概要】

キャリアセンターでは、学生が就職への知識、情報を持ち活動が円滑に行えるように、また、学内で開催される『三河地区企業学内研究セミナー』にあわせて最新の求人情報を整理し情報ビジネス学部用に就職用企業パンフレットを増刷した。

就職活動体験集は先輩4年生から就職情報、アドバイス、体験談を収集し、3年生へ就職活動内容を伝えることを目的に学部別に追加別冊を作成した。当体験集は実践的な業界研究、企業研究、職種研究も含めた形で応募、エントリーシートの提出、説明会、筆記試験、面接試験等内定が出るまでの道筋を企業ごとにまとめられている。

【就職活動体験集内容】

1. 掲載内容は次のとおりである。

『企業名』、『応募方法』、『最終結果（採用・採用辞退・不採用）』、『業種・職種』、『この業界・この企業を選んだ理由』、『この企業を知った情報源』、『活動・採用プロセス』、『筆記試験・適性検査内容』、『問題の再現』、『論作文の内容』、『1次面接の内容』、『2次面接の内容』、『感想アドバイス』

2. 情報ビジネス学部用

一般企業、製造業、情報通信、運輸、卸小売、飲食業、金融、サービス業、サーラグループ、郵政、公務員等 約60社

3. リハビリテーション学部用

医療施設等 40施設に新たに30施設を追加し印刷した。

今年度卒業予定の4年生の協力を得て、情報を集めて編集したものである。1期生の報告書に今回2期生が加わることで、次年度3期生の後輩の就職活動に、大きく貢献できるものと期待している。

【就職用企業パンフレット】

当パンフレットは、本学で行われる三河地区企業学内研究セミナーを中心に、最新版を掲載することとした。厳しい求人状況のなかセミナー参加企業は昨年の30社から37社に増加した。また、本学ではWebにて求人情報を公開しており、こちらとの併用となる。なお、リハビリテーション学部については、就職先が病院や医療施設となり、就職活動の時期が異なるため、セミナーの同時開催は困難である。よって、今後も情報ビジネス学部を中心とした、一般企業の学内セミナー向けパンフレットを中心に作成する。

就職支援 現役理学療法士及び病院経営者による講演（理学療法学科）

中村隆三

【概要】

理学療法学科学生に対する就職支援にあたり、就職先である医療福祉業界という専門分野での知識・心構えを事前に習得する必要がある。今年は医療現場より現役理学療法士や病院経営者を講師に招き講演会を実施した。

【事業内容（平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月）】

実施内容① 現役理学療法士による講演



- ・開催日 2月28日（月曜日） 3限4限 A21
- ・講師 神奈川県立保健医療大学 内田賢一氏
- 【講演内容】『理学療法士に求められるものとはなんだろう』技と心
 - ・医療人として大切なもの
 - ・クリニカルリーズニング（臨床推論）
 - ・形式知と暗黙知
 - ・ホスピタリティ
 - ・患者との距離の取り方も重要
 - ・よい態度を身につけるための基本
 - ・誠実な新人医師の話

実施内容② 病院経営者による講演

- ・開催日 3月1日（火曜日） 3限
- ・場所 A21 教室
- ・講師 特定医療法人 整友会 理事長 江崎雅彰氏



- 【講演内容】
 - ・特定医療法人整友会の紹介
 - ・理学療法士の報酬 医療費と病院経営
 - ・理学療法士は科学者である。
 - ・国家資格を持った時点で、医学的な嘘、間違いを言えば罪になる。根拠の無いものは認めてはならない。
 - ・西洋医学と東洋医学。
 - ・藪医者一病気を治す。普通の医者一人を治す。名医一世界をなおす。
 - ・一生懸命ではなく、本気で働く PT になる。・広い視野を持つ。

2. 実施報告と今後の課題

参加者：53名（理学療法学科3年生 教職員4名）

昨年より現役理学療法士および病院経営者による講演を行った。現役理学療法士であり神奈川県士会生涯学習部長である内田先生は、3年生のほか、就職前の4年生も参加して経験豊富なご講演を聴講しました。また病院経営者として地元豊橋で3つの整形外科病院を運営されている整友会の江崎雅彰理事長は医師と経営者の両面の立場から病院全体の中での理学療法士の役割や求められる人材、心構えを分かりやすく解説いただきました。特に『仕事は一生懸命ではだめだ、本気でやれ！』というところにPTとしての職業観、人生観が伝わりました。これから臨床実習や就職活動を控える3年生に大変有意義な講演となりました。次年度も理学療法士としての就業観に溢れる講師陣を派遣し、学生のキャリアアップにつなげたい。



看護専門職者による講演会

刑部万寿美

【概要】

講演会の目的を昨年度に引き続き「今日の看護界における資格認定制度の内容と資格取得後の実践活動を知ることにより、自己における看護イメージを拡大させ、自己の将来像を明確にすることに役立たせる」とし、学生の学習状況に合わせた内容で、1年生、2年生に講演会をそれぞれ1回実施した。学生へのアンケート結果から2年生はより明確な自己の将来像につながり、1年生は専門職者としての看護師のイメージを拡大させていた。さらに両学年ともに日々の学習の積み重ねが必要であると回答し、専門職者、またチーム医療を担う者となるために必要な学習への意欲の向上に役立っていた。

【事業内容（平成22年4月から平成23年3月）】

1. 学習内容に合わせた講演会

昨年度は今までの保健師、助産師、看護師だけのイメージから大きく広げ、自己の将来像を明確にすることに役立たせ、その将来像に向けて意欲的に学習に取り組むための動機づけになることを期待し、専門看護師、認定看護師による講演会を実施した。

しかし、1年生の段階ではまだ専門分野の学習が終了していないため、専門看護師、認定看護師の実践活動では卒業後のイメージを具体的にもつことができないのではないかと考えられた。そこで今年度の1年生は看護師資格取得後の実践の様子から学生時代に何を学べばよいのかを考え、その上で自己における看護イメージを拡大させ、自己の将来像を明確にすることに役立たせることができる内容とした。また、専門分野の学習が進んでいる2年生には昨年度学生から希望が多かった小児分野の専門看護師による具体的な看護実践内容とした。

2. 講演会実施内容

- 1) 1年生：平成22年7月15日（木）第5限（16時30分～18時00分）A棟21教室
「新人看護師の姿から見えてくるもの—学生時代に学んでほしいこと—」をテーマに社会医療法人明陽会 成田記念病院看護部長 世古美恵子氏による講演会を開催。学生97名が参加。
- 2) 2年生：平成22年11月19日（金）第3限（13時10分～14時40分）A棟21教室
「子どもと家族を支える看護」をテーマに名古屋第二赤十字病院 小児看護専門看護師 太田有美氏による講演会を開催。学生78名が参加。

【事業実施に対する評価】

1. 学生対象アンケート結果

1) 1年生：同意の得られた学生 65名（有効回答率 67%）を対象に分析。講演会の内容が今後の学習や進路を考える参考になったと全員が答え（図1）、今後必要なことについては日々の学習の積み重ねを男女合計 61名（93%）が必要であると回答していた（図2）。

また、講演後にイメージした理想の看護師像については自由記載から「知識と技術を身に付けた看護師」、「根拠をもって物事を伝えられる看護師」、「医師との連携が取れる看護師」、「知識があり、自分の意見を言える看護師」、「チーム医療に貢献できる看護師」、「患者さんや家族に正確な知識をもとに正しいこと、悪いことを区別して伝えることができる看護師」などの回答がみられ、図2で専門的知識・技術が必要であると 37名が回答しているように専門職者としての責任やチーム医療を担う者として知識はもとよりコミュニケーション能力や意見形成能力の必要性も理解していることが窺えた。

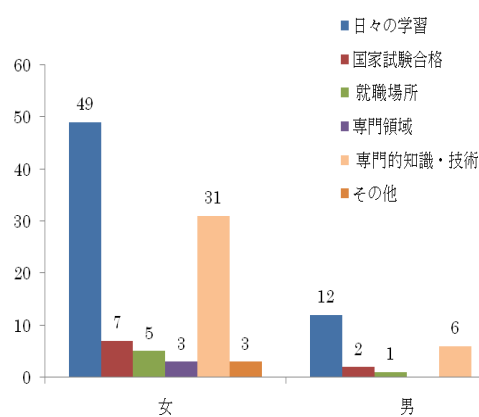
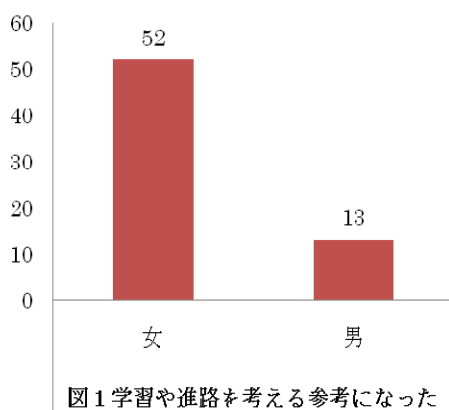


図2 今後必要だと感じたもの



1年生を対象にした講演会の様子

2) 2年生：同意の得られた学生 75 名（有効回答率 96.1%）を対象に分析した。小児専門看護師の役割についてはとても理解できた、まあまあ理解できたを合わせて 74 名の学生が理解できていた（図 3）。また、具体的な臨床での援助内容をとおして「子どもと家族を支える看護」について学生はほぼ全員が理解を深めていた（図 4）。

自由記載には「子どもとの関わり方はタイミングや言い方が重要であることがわかった」、「子どもの発言の意味を理解することが大切」「『頑張ったね』の一言を言うだけでもタイミングが重要で、成人や老年以上に工夫したり考えたりしないといけないと思った」など子どもとの関係性を築くためのコミュニケーション技術の重要性が記載されていた。また、「将来、小児看護に進みたいという気持ちがあるため、大変参考になった。今後の演習や授業を病気になっている子どものことを考えながら受ける必要があると感じた」、「小児科で働きたいと思っていたのでますます興味が湧いた」、「今日の講義を聞いて子どもって凄いなと思った。今後の進路の参考にしたい」、「自分も小児の専門看護師になりたいと考えているので、良い経験になった。絶対に小児病棟で働きます」、「将来小児分野に関わっていきなりたいと思っています。小児科は大変だけれどとてもやりがいがあると思います。今回の講演で、勉強の意欲が高まりました。」など、将来像をより明確なものとして認識し、その将来像に向けて学習意欲を高めている学生がみられた。さらに図 5 にあるように 74 名がこの講演会が進路を考える上で参考になったと答えていることから自己の将来像を考える上で有効であったといえる。また、将来像を小児看護専門看護師以外に描いている学生にとっても、講義や演習によって学んだ内容を看護実践としてリアルな状況でイメージできたことからより理解を深め、90%以上（70 名）の学生が日々の学習の積み重ねの重要性を感じていた（図 6）。

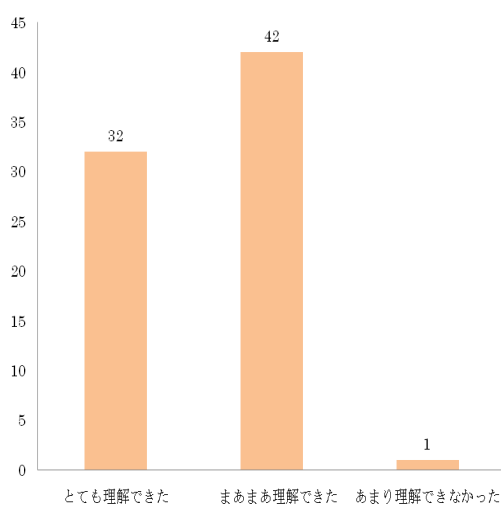


図3 小児看護専門看護師の役割について

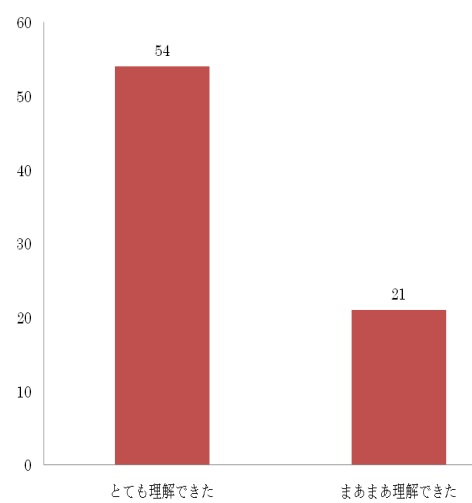


図4 「子どもと家族を支える看護」についての理解

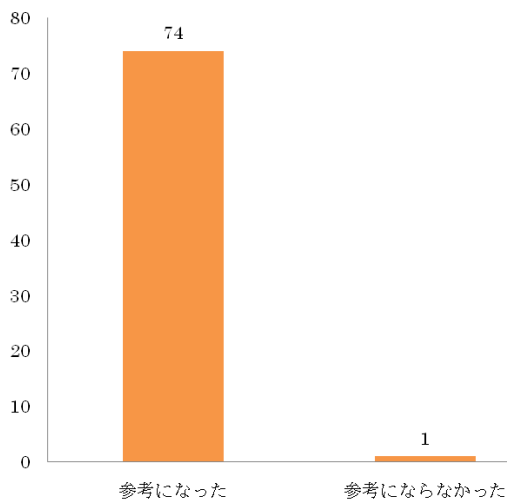


図5 進路の参考

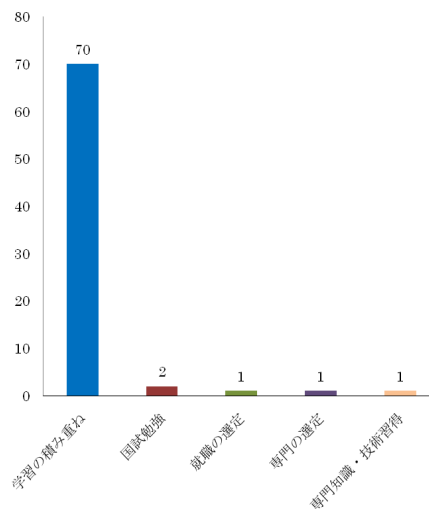


図6 今後必要だと感じる事



2年生を対象にした講演会の様子

2. 実施評価及び今後の課題

学生の学習進度に合わせた内容で、1年生、2年生に講演会をそれぞれ1回実施した結果、2年生はより明確な自己の将来像につながり、1年生は専門職者としての看護師のイメージを拡大させていた。さらに両学年ともに日々の学習の積み重ねが必要であると回答し、専門職者、またチーム医療を担う者となるために必要な学習への意欲の向上に役立っていた。

これらのことから、看護専門職者による講演会の開催は学生の自己における看護イメージの拡大と将来像の明確化及び学習意欲向上への動機づけには効果が見られたと考える。

次年度はさらに在学生在が増加し、学年が進むことから、1年生および2年生の将来像の明確化と学習意欲の向上へ向けた支援に加え、3年生については具体的な就職支援として、イメージした自己像の実現に向けて有効な就職場所の選択につながるような機会をつくる必要があると考える。

診療情報管理士認定試験対策講座の開設

担当 五味悠一郎

【概要】

診療情報管理士認定試験の合格者数増加を図る目的で、平成 21 年度に診療情報管理士認定試験対策講座を実施したところ、本学の受験者 5 名中 1 名が合格した。対策講座の出席率の良かった学生が合格したことと、対策講座後（認定試験受験後～合否発表前）に行ったアンケートの結果から、ある程度の効果はあったと考えられる。

平成 22 年度はアンケート結果を元に対策講座の改善を行い、他大学での実施効果が報告されている勉強会も実施することで、合格者数の増加を目指した。対策講座を維持継続する目的で、学外への公開も行った。

平成 23 年度は平成 22 年度のアンケート結果を元に、対策講座のさらなる改善を行う。

【事業内容（平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月）】

1. 平成 22 年度診療情報管理士認定試験・対策講座

(1) 対象者

平成 22 年度および平成 23 年度診療情報管理士認定試験受験予定者（学外含む）

(2) 日程

日付	内容
12/4 (土)	・基礎科目練習問題 テキスト I ・基礎医学(緑)
12/11(土)	・基礎科目続き 次の問題（模擬試験形式第 1 回）を行う。解答・解説 ・専門科目(60 分)試験形式第 1 回、解答・解説 テキスト I ・基礎医学、III ・診療情報管理(オレンジ)
12/18(土)	・分類法(90 分)試験形式第 1 回 ・解説・質疑応答、練習問題(コーディング HIM2010) ICD-10、テキスト IV ・分類法（青）
1/5(水)	・コーディング HIM2010 解答・原死因解説、次の問題 HIM2009 ・基礎科目(60 分)試験形式第 2 回、解答・解説 テキスト IV ・分類法、ICD-10、テキスト I ・基礎医学
1/6(木)	・専門科目(60 分)試験形式第 2 回、解答・解説 ・分類法(90 分)試験形式第 2 回 テキスト III ・診療情報管理(オレンジ)、ICD-10
1/22(土)	・分類法(第 2 回)解説・質疑応答、練習問題(コーディング)解説 ・基礎科目(60 分)試験形式第 3 回、解答・解説 テキスト I ・基礎医学、ICD-10
2/5(土)	・前回の続き、専門科目(60 分)試験形式 3 回目(2006 年問題) ・基礎科目練習問題
2/12(土)	・総復習（希望の科目を実施する）

2. 平成 22 年度診療情報管理士認定試験・勉強会

(1) 対象者

平成 22 年度および平成 23 年度診療情報管理士認定試験受験予定者（学内のみ）

(2) 日程

期間

- ・平成 22 年 9 月 22 日（水）～12 月 22 日（水）
- ・平成 23 年 1 月 11 日（火）～2 月 10 日（木）

日時

火 2 限、水 4 限、木 5 限

※対象者の時間割の空き時限に設定。

(4) 実施方法

対象者を基礎／専門／分類法の 3 グループに割当て、持ち回りで勉強会を運営する。勉強会の内容や運営方法は各グループに一任する。担当教員はアドバイスや流れのコントロールを行う。

【事業実施に対する評価】

1. 平成 21 年度診療情報管理士認定試験対策講座のアンケート結果（n = 5）

Q1. 講座全体の満足度

大変満足	1
どちらかという満足	4
どちらかという不満	0
大変不満	0

Q2. 講座の開講回数

多い	0
適切	3
少ない	2

Q3. 適切だと思う開講時期（複数回答可）

春学期授業期間	0
夏季休業前半	2
夏季休業後半	3
秋学期授業期間	1
冬季休業前半	2
冬季休業後半	2
認定試験直前	3

Q4. 講座を受講した効果（複数選択可）

認定試験の緊張が減った	0
認定試験の点数向上に繋がった	2
勉強をやるきっかけになった	2
自分の不得意分野を知ることが出来た	3
分からなかった問題を理解することが出来た	4

その他

- ・時間を計ってやることができたので、よかったです。

Q5.講座の内容（自由記述）

- ・ある程度のことは講義でやっているのので、模擬試験をたくさんやって、時間配分に注意したり慣れておくようにした方がいいと思います。
- ・多くの問題を解くことが効果的であると思った。試験の出題傾向に慣れることで時間配分に余裕が持てた。習った箇所からも出題されたことから講座の有効性が実感できた。
- ・応用問題が多かったのので、基本的な問題をもう少しやりたかったです。
- ・テストの後の説明がもう少しあっても良かったと思う。

Q6.その他（自由記述）

- ・講義では試験がないものもあるため、1年次に学んだことは3年になったらあまり覚えていなかったこともあるし、講義だけでは時間が少ないので、復習も兼ねて早めに対策講座を開いた方がいいと思いました。
- ・対策講座を開くことで、勉強をする意欲にも繋がると思う。
- ・講座をやり昨年よりはできたことはよかったです。忙しくて参加できていない時があったのはすいませんでした。これからも頑張ります。ありがとうございました。

2. 全体評価

認定試験対策講座は無事に終了した。授業期間以外に実施しているにもかかわらず欠席する学生は少なく、認定試験に向けた意欲を感じられた。講座実施中も皆熱心に取り組んでおり、受講生が積極的に質問する場面も多くあった。認定試験直前まで、専門の講師に質問できることが良かったようだ(図1)(図2)。



図1 講座風景1



図2 講座風景2

学生が他の学生へアドバイスしている場面もあった。グループ毎に担当箇所を割り当て、勉強会を実施した効果と考えられる。

平成21年度は本学の受験者5名中1名が合格した。対策講座の出席率の良かった学生が合格したことと、対策講座後（認定試験受験後～合否発表前）に行ったアンケートの結果から、ある程度の効果はあったと考えられる。

平成22年度はアンケート結果を元に対策講座の改善を行い、他大学での実施効果が報告されている勉強会も実施することで、合格者数の増加を目指した。対策講座を維持継続する目的で、学外への公開も行った。

平成23年度は平成22年度のアンケート結果を元に、対策講座のさらなる改善を行う。